

会が始まった時、二十枚の手作りの屏風が用意されているのには、驚きました。後でわかったことですが、十年ほど前に、吉本先生のところで、幹部の方々のほとんどが、集中内観をうけられておられるとのことで、岡山の本部には立派な内観研修所も建てられています。

ちょうど、こちら瑞江での内観の話を進めている時と、時を同じくして、岡山本部から毎月出されている新聞に内観の記事が大きくのせられて、ということがわかり、偶然の一致に、天のご意志といえますか、そのような大きな力がはたらいたように思えて不思議でなりません。



では、参加された方々の感想をご紹介します。
※「自分は弱虫で外に出られず、いつも母の側にいてお世話をしていただきていたのに、いくら思い出そうとしても母の姿が浮かんでこ

ない、自分の姿だけが出てくると、はじめは感じていましたが、三時間内観してみても、いかに自分が自分のことしか考えていない人間かがわかりました。母のことなど、全く見ていなかったのです。このような自分が変わるには、内観を続けていく必要があると思います」

※「自分は少しは良い人間だと思っていました。が、内観しておきた事実を一つ一つ掘り下げて調べていくと、自分は相手の身になって考えたことが一度もなかった。本当に自分勝手な人間だったということを知られました」

※「十八歳の時に何かを考えなければいけないということに気がついたんですが、戦争が始まって、結婚して、そしてとにかく子どもを育てなくてはと思って、目をおおって、耳をふさいで、ただっっ走って五十年間考えないで来たんです。でも、内観に出会わせていただいで、本当に大事なことを考えはじめることができたようでありがたく思っています」

(連絡先 ☎03-3698-3694 鈴木孝行)

池上吉彦 湯の里分校の内観者たち(13)

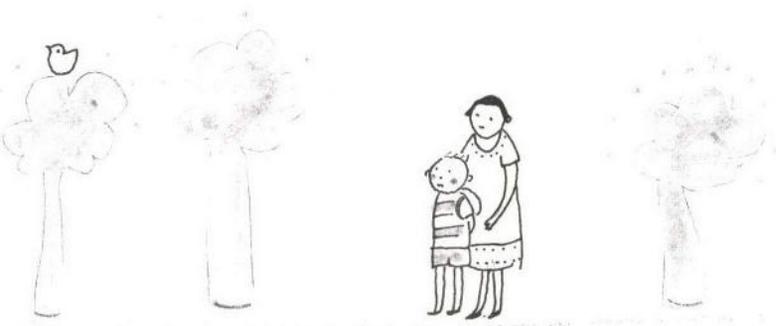
A男のN樹に対する態度の内観による変化は、家庭生活の中でもいい状態として表われたようです。夏休みも終わりに近いころ、湯の里分校の内観実習室で一人の生徒が集中内観をするという話を聞き込んで、A男の母親は、I先生を尋ねて来ました。

「先生、A男の弟のA信に内観させたいと思いますが、やらせていただけませんか」

「それはいいですよ。でもどうして内観させるつもりになられたか」

「はい、A男が内観から帰って来まして、すごく素直になり、家のことをいろいろ自分からしてくるようになって、うちの中の雰囲気のがらっと変わりました。今、A信は小学校六年ですが、中学になってA男の二の舞にならないよう内観させたいと思います」

本人も承知しているというのでI先生は喜んで迎えました。くり



くり坊主の目のぱっちりした、ほっぺの赤いかわいい子です。内観も素直に入ってくれました。

母に対する自分と父に対する自分を調べた後、「嘘と盗み」の調べに入りました。そしてそのあとは、母に対しての自分と「嘘と盗みと校則違反」とか、先生に対しての自分と「嘘と盗みと校則違反」など、どなたに対して調べるときも、「嘘と盗みと校則違反」を並行して調べていくように指示されました。

内観のテーマの中で、一番重要なテーマは「母に対する自分」です。テープ「神経胃炎」のおわりの部分に池見西次郎氏の話が入っていて「天地一切のものに感謝しても母親への感謝がでなければ何もならない」といい「母との関係が全ての人間関係の基本」と語っています。それと、内観は「罪悪感が熾烈になる」（テープ罪）ことを求めますので「嘘と盗み」のテーマが同じ重みを持つのです。六年生の時「嘘と盗み」を徹底的に洗う練習をしたおかげで、A信は母親の願いのとおりの中学生生活を過ごしました。それにしても六年生で七泊八日よく頑張れたものです。

（筆者は高校教師）

